地域・コミュニティ活動助成

桃谷ロイター実行委員会

大阪府大阪市

多様化したコミュニティの相互理解と交流の「深化」を図る活動

地域イベント「IKUNO みんなの学校」での参加型企画「おりおりサロン」

団体設立経緯

古代の遺跡や戦前の家屋が数多く残り、大阪市内でも随一の「ものづくりの町」として知られる大阪市生野区。全国で最も外国人居住者の比率が高く、多様な文化と歴史が混在する地域です。当団体は、地域に根付く多様な文化、歴史、価値観を重要な魅力であると考え、地域の「人・場所・もの」を調査・取材・編集・発信するために、2016年に設立しました。

当団体では、新旧住民の交流の機会を創出するとともに、地域課題のリサーチと解決への検討・提案を行い、これらの事業を通じて、住民主体のまちづくりを促進し、地域活性化を図ることを目的としています。

活動概要と活動対象範囲

活動概要：地域の歴史文化や、地域産業を取り巻く現状、4軒に1軒が空き家と言われる生野区の空き家状況、地域の様々なコミュニティと多様な活動、新旧住民それぞれの地域への思い、それらを調査し編集して地域のローカル情報誌「**桃谷ロイター**」として発行しています。その過程で浮かび上がってくる複数の地域課題に対して、地域の人々やコミュニティと連携して働きかけています。

活動対象範囲：大阪市生野区

活動に至った理由や背景

生野区には、地域課題へ働きかける様々な活動がありますが、それらの情報は、地域内外の限られたコミュニティにしか届いていない現状があります。また多くの地域課題は、単一分野による働きかけでは行き詰まりを見せており、少子高齢化、空き家対策、貧困、製造業の低迷など、いずれの課題も多分野からのアクションが重要な要素になります。

当団体では、区民の様々な活動を横断しながら、それらの活動を広く平易に伝えることで、地域を良くしたいと思う人々をつなげたいと考えました。そして、そのような多種多様な情報が集まるメディアを発行することで、世代や国籍、職業、専門分野などの垣根を超えて、異なる価値観を持つ人と人をつなぐハブになり得るのではないか、そんな思いから現在の活動に至りました。

活動内容と成果

【活動1】情報誌「桃谷ロイター」の継続発行

「桃谷ロイター」は、2017年度に創刊した地域のローカル情報誌です。19年度の活動では、4号・5号を発行・発送しました。発行を重ねるにつれて新しい読者も少しずつ増え、バックナンバーへのご要望もいただくようになったため、創刊号である0号を増刷しました。

最初はこんな情報誌があればいいね、という仲間との会話からスタートした活動ですが、創刊から3年目を迎え、さまざまな人から感想や期待の声をいただくようになり、そんなお声を受け止めていくことで、改めて「桃谷ロイター」というメディアの可能性や面白さを実感するようになりました。そしてこの活動を続けていくために当団体に必要なことについて考え、動き始めた年になりました。そのひとつとして、編集チームに新たに2名のメンバーが加わりました。

「**桃谷ロイター 4号**」発行日：2019年8月5日／発行部数：1500部

「**桃谷ロイター 5号**」発行日2020年2月15日／発行部数：1500部

設置場所：約100カ所

〈**生野区内**〉飲食店、区役所、図書館、ギャラリー、工房、神社、地域イベントなど　〈**関西圏**〉飲食店、書店、大学、市民学習センター、アートスペース、ゲストハウスなど

情報誌「桃谷ロイター」では、生野区内の様々な現場を取材する　（**右上の写真**）4号の取材で訪れたヘップサンダルの会社　（**右下の写真**）5号の取材ではランドセル工房などを訪れた

【活動2】リサーチ事業（ロイター誌面・記事取材のための調査）

19年度は、生野の代表的なものづくり産業のひとつとして知られているヘップサンダルの会社、戦後すぐに生野区でパン屋を創業された老舗のパン屋さん、子どもたちへの学習サポートやまちづくり事業に関わるNPO法人、商店街のスパイス屋さんで働く在日外国人の女性、家業を転向してオープンしたバーのマスター、ランドセル工房など、幅広い世代、属性の方々にお話しを伺うことができました。（内容は、桃谷ロイター 4号・5号参照）

●取材先

長江伸治さん、大西登さん：戦後すぐに生野区でパン屋を創業された鳴門屋製パンの3代目社長と、15歳で入社後、パン作りの現場を支えてきた職人さん

宋悟さん：コリアンタウンに事務所を置き、子ども達への支援活動に取り組んでいるNPO法人クロスベイスの代表

新井英豪さん：ヘップサンダルをベースに新しい試みにもチャレンジしながら企画製造販売を手がけるシーズン・フォーラムの代表

プラティーバさん：商店街にあるスパイス屋さんで働いているネパール出身の女性

鍛貫一さん：長く空き家だった木造アパートを改装し、引っ越しされた美容師さん

首藤博さん：生野区で生まれ育ち、家業の家具屋を継いだ後、工場を改装しジャズバー「M's hall」を経営するマスター

長井宏治さん：革の手づくりランドセルにこだわる「ランドセル工房生田」の社長さんであり職人さん

大熊徹さん：住宅街にある元工場の中に、秘密基地のようなバーをオープンしたマスター

お好み焼き千代 本店：地域の人々に親しまれている老舗のお好み焼き店

足立弘さん：風呂なし長屋に移り住み、銭湯通いを楽しんでいる95歳のおじいさん

発行記念イベントとして、取材先と読者、実行委員会メンバーとの交流会を開催。地域に興味のある人同志を横断的につなぐ

ウェブサイト（右上）に冊子PDFを掲載、宣伝用のパンフレットも作成した

協賛特典の「地域の小包」。地元企業と共同開発したおちょこなどを同梱

新たな地域活動として、神社でのピザづくり体験などを企画

【活動3】活動のPRとアーカイブ（ウェブサイトの本格始動）

旧サイトを統合した新たなウェブサイトを立ち上げ、インターネット経由で桃谷ロイターの閲覧ができるようになりました。これにより、より広範な地域に向けて当活動をPRすることが可能になったと同時に、活動支援の窓口をウェブ上に設置し、運営していくことができるようになりました。　**稼働時期**：2019年7月

【活動4】イベント事業（収益事業）

当団体の活動を持続させるための基盤づくりの一環として、イベント事業（収益事業）を実施しました。

情報誌で収入を稼ぐためには、広告収入を得るということが手近な方法としてありますが、地域の人々の暮らしに寄り添うメディアでありたいと考える本誌にとっては、「広告収入」については慎重に考えていきたいと思っています。

そこで当団体では、直接地域の方々へ本誌を手渡し発行の思いを伝えるために、メンバーの得意分野を活かして、地域行事などへ積極的に参加しています。

●地域イベント「IKUNO みんなの学校」への出店

開催日：2019年8月3日

場所：元鶴橋中学校（生野区勝山北4-9-22）　**参加者**：26名

内容：情報誌「桃谷ロイター 0号」の折り体験、生野プロダクト「ドリップスタンド」を活用したハンドドリップコーヒー・桃カルピスの販売、桃谷ロイター誌面の拡大展示、桃谷ロイターパンフレットの配布、地域の情報収集と交流、メンバー拡充勧誘

●誌面関連交流会「4号発行交流イベント 夏の交流会～スナック＆喫茶～」

開催日：2019年8月23日、24日

場所：ギャラリー KONOMURA（生野区桃谷2-10-19）　**参加者**：43名

内容：「オリジナル・ももカクテル」および「鳴門屋パンコラボメニュー」、「ハンドドリップコーヒー」などの販売、「シーズン・フォーラム」の靴・サンダル即売会、「おりおりサロン」、メンバー拡充勧誘、桃谷ロイターパンフレット配布、桃谷ロイター誌面の拡大展示、誌面ご紹介の方々と読者・実行委員会メンバーとの交流

【活動5】未来の収益事業のための仕組みづくり長期プロジェクト

当団体の活動を広く知っていただくため、また活動の支援者を募るために団体パンフレットを作成し、資金援助から作業のお手伝いまで、さまざまなかたちで活動に参加していただける仕組みをつくりました。

生野区は大阪市内で最も製造事業所が多い「ものづくりの町」であり、優れた技を持つ職人さんが数多くおられます。しかし、製造業は現在衰退の一途を辿り、新たな道を模索し続ける人もいれば、自分の代で家業を辞める決意をされる人もいます。

当団体では、リサーチ事業のプロセスでそのような現状と、素晴らしい職人技と製品の数々を知り、何かできることはないかと考えました。そこで、当団体の持続的活動の基盤づくりと生野区のものづくりのPRを兼ねて、新たな「生野プロダクト」として「**桃谷おちょこ**」を制作。地域で親しまれている菓子店にもご協力いただいて、活動へ協賛していただいた方への特典として「地域の小包」をお届けしました。

【活動6】その他の事業「木野村へっついさんプロジェクト」参画

桃谷ロイター活動初期より開催している「彌榮神社の集い」から派生したプロジェクト。年齢、国籍を問わず、障害の有無などにかかわらず、隣近所に暮らすすべての人が、地域で共に支えあいながら生きることのできる地域の実現を目指して活動していく予定です。桃谷ロイターでは、この活動が当団体の主旨・目的とも合致することから、団体の設立やイベント運営をサポートしました。

発足：2019年4月22日

会員：6団体・8個人

役員：副代表・木村文典、事務局・川口万喜／坪田直、会計・伊藤千春

●ピザ窯・ピザづくりワークショップ開催

生野区桃谷地域にある彌榮神社の境内に、簡易の窯を設置しピザづくりを体験するワークショップを開催しました。また近所の方々にコマ回しなどの昔遊びを教えてもらえるコーナーも設け、遊びながら学び、食育にもつながる機会を創出しました。

開催日：2019年9月22日

場所：彌榮神社境内（生野区桃谷2-16-22）　**参加者**：約80名

内容：組立式のピザ窯の考案・製作、ピザづくり体験、神社境内での昔遊び（コマ回し）など

●本格窯づくりと運営に関する検討会

9月のワークショップを踏まえて、本格窯の製作と今後の運営に関する検討会を複数回にわたって開催しました。桃谷ロイターのメンバーの1人が中心となって本格窯の施工を開始し、3月に無事完成することができました。今後は地域の共同窯として、食育や交流イベントの機会を生み出していく場になるように、地域の方々が主体となって活動を継続していく予定です。

本格窯施工期間：2020年2月～3月

運営開始：2020年秋頃～

完成した本格窯。地域の共同窯としての利用を想定

課題と解決方策

当団体の活動は、広告を載せない情報誌の発行が中心軸にあり、即効性のある広報効果や収益には結び付きにくいのが難点です。しかし、分かりやすいキャッチコピーやインパクトのある写真だけでは伝わらないような、ひとつのお店にある背景や1人の人間の思い、地域の変化、それらを丁寧に伝えていくことで、経済活動や日々の暮らしのなかで見落とされていくものを拾い上げ、未来につないでいくことができると考えています。

そこにはたくさんの発見があり、豊かな社会をつくっていくために必要不可欠なものは何か、ということを気付かせてくれます。この取り組みを続けていく上では、矛盾するようですが、少しでも収益やPRに結び付くような応援で地域に貢献していくことも必要です。そういった意味で、19年度の活動では、ものづくりの職人さんや地域の菓子店と連携した協賛特典「地域の小包」を生み出せたことが成果のひとつでした。

今後、「桃谷ロイターの発行→支援者の募集→地域産業の応援→継続発行」というように、当活動を基点に支援が循環していく仕組みを整え動かしていくことが今後の大きな課題であり、そのためにまずは団体の運営体制を少しずつ整えていくことが重要だと考えています。

今後の予定

地域の歴史と現状を調査し、相互理解を促すための情報誌「桃谷ロイター」の発行と、それをPRし、当団体の収入源となる「イベント」の両輪がメイン事業であることに変わりはありません。加えて、事業を継続していくために今期新たに加わったメンバーを含めた体制づくりに着手します。

そうすることで、住まいとコミュニティづくり活動助成事業で2018～19年度の2年間助成していただいたことで実現できたものを、今後の活動に活かし、より活動の充実を図ることができると考えています。

桃谷ロイター実行委員会

2016年11月設立／メンバー数:11人／代表者:伊藤 千春(いとう・ちはる)

●〒544-0034　大阪府大阪市生野区桃谷2-10-21

☎090-3841-5080　momodaninoneko@gmail.com

momodaniloiter.com　www.facebook.com/momodaniloiter/

大阪市生野区の多様な文化、歴史、価値観は大切な魅力です。地域の「人・場所・もの」を取材・編集・発信し、新旧住民の交流の場を創出すると共に、地域課題の検討と提案を行い、地域活性化を図ることを目的としています。